専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	
スポーツ科学部	教授	宮地弘太郎		有

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日（期間）	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
テニステキスト　初心者指導法　執筆者　梅林薫　松原慶子　宮地弘太郎	平成２６年３月より現在に至る	テニスの授業を発展科目(半期必修)としてテニスI(2年対象)、関連科目（通年選択)テニスII資格関連科目、半期選択として(特別演習・テニス 4 年対象)を開講している。テキストを基に授業展開する
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
ユニバーシアードチーム男子監督(2014年より男子ヘッドコーチ) S級エリートライセンス，JOCオリンピック委員会テクニカルスタッフ	２０１３年３月より現在に至る	男子ナショナルチーム(ユニバーシアード)での強化指導、国際競技大会での 強化、経験を積ませ、ナショナルA,B代表、オリンピック、グランドスラムへ 繋ぐ次世代強化を目的とした活動。 ナショナルコーチには必至であるライセンス。(国際大会、国際競技大会での 経験を踏まえ、後任への指導を目的としたエキスパートなライセンスである経験を踏まえ、後任への指導を目的としたエキスパートなライセンスである)

Ⅱ　研究活動

著書（単著）

書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月

著書（共著・分担執筆）

題目／書名	著者／編者	初（始）頁～終頁	発行所	発行地	発行年月

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
テニス競技のナショナルジュニアに求められる体力評価の検討	小屋菜穂子、北村晢、宮地弘太郎、梅林薫、道上静香	テニスの科学第２２号	22	P23-P32	2014年3月

総説

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月

その他　（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者		誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
選択	日本男子学生テニスの強化策につ いての考察-第26回ユニバーシ アード競技大会の強化活動と今後 の課題-	単	宮地弘太郎	関西国際大学研究紀要第14号	14	P209-216	2013年3月
実践報告	大学テニス選手に対するフィジカ ルトレーニングメニューの検討	共	高橋仁大、宮地弘太郎、細木祐子、村上俊祐、北 村哲、道上静香	テニスの科学第22巻	22	P138-P139	2013年3月
実践報告	大学テニス選手に対するフィジカルトレーニングメニューの検討	単	宮地弘太郎	関西国際大学研究紀要第14号	14	P209-P216	2013年3月
実践報告	本学テニス部員に対するトレーニングプログラムについての検討	単	宮地弘太郎	テニスの科学第21号	21	P88-P89	2013年3月
実践報告	テニス競技のナショナルジュニア選手に求められる体力評価の検 討	共	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小 屋菜穂子	テニスの科学第22巻	22	P140-P141	2013年3月
実践報告	エリートテニス選手のボール配球についての研究-左利きプレーヤーに着目して-	単	宮地弘太郎	関西国際大学研究紀要第15号	15	P115-P120	2014年3月

実践報告	第27回ユニバーシアード競技大会(2013/カザン)における女子テニスチームの取り組み －９年間の取り組みから金メダル獲得の要因を探る-	共	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小 屋菜穂子	テニスの科学第23巻	23	P138-P139	2014年3月
実践報告	男子エリートジュニアテニス選手のゲーム分析について	共	黄　金禄（大阪体育大学院）、出井章雅（同志社大学）、今西　平（立教大学）、鈴木奈都美（大阪体育大学）、宮地弘太郎（大阪体育大学）、梅林薫（大阪体育大学）	TENNIS SCIENCES VOL.22 2014テニスの科学 第22巻	22		2014年3月
実践報告	ユニバーシアードに関する強化事業報告書	共	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小 屋菜穂子	日本テニス協会　強化本部　ナショナルチーム			2015年3月
実践報告	テニスにおけるゲーム・映像分析サポートの実践事例-第27回ユニバーシアード競技大会(2013/カザン)に向けての活動から-	共	小屋菜穂子、北村哲、梅林薫、宮地弘太郎、道上 静香、細木祐子	テニスの科学第22巻	22	P23-P32	2015年3月
実践報告	テニスのシングルスゲームにおいて流れを掴む局面でのプレートは-2014年全豪オープンテニスナダル対錦織を考察する-	単	宮地弘太郎	Japan Jounal　of TENNIS SCIENCES VOL.24 2016テニスの科学 第24巻	24	P84-P83	2015年3月
実践報告	コートサーフェイス別における女子プロテニス選手のシングルスゲーム分析-砂入り人工芝コートとハードコートのプレーに着目して-	共	宮地弘太郎、道上静香、細木祐子	Japan Jounal　of TENNIS SCIENCES VOL.24 2016テニスの科学 第24巻	24	P80-P81	2016年3月
実践報告	テニスの一流指導者の考えるシングルスゲームにおける戦術観に関する実践的研究ーSCAT質的データの分析から	単	宮地弘太郎	大阪体育大学研究紀要第46巻	46	P77-P84	2016年3月
実践報告	ユニバーシアード競技大会（2015/クワンジュ）において１６年ぶりに男子ダブルス銅メダルを獲得に至った強化活動	共	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、梅林薫	テニスの科学第24号	46	P82-P83	2016年3月
実践報告	映像を用いた累積的フィードバックがテニスのパフォーマンスに与える効果	共	宮地弘太郎　梅林薫	大阪体育大学研究紀要第45巻	45	P55-P78	2015年3月
実践報告	コートサーフェイス別におけるテニスのゲームパフォーマンスに関する指導者の主観的評価ー砂入人工芝コートとハードコートのプレーに着目してー	共	道上静香、細木祐子、道慶知子、宮地弘太郎	テニスの科学第24号	24	P80-P81	2016年3月
実践報告	テニスのフットワークに関する研究-数ヶ月に渡る継続的な縄跳びがフットワークパフォーマンスに与える効果についての検討-	共	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、三好勲、安田忍、右近憲三、梅林薫	テニスの科学25巻	25	P140-P141	2017 年3月
実践報告	テニスのコーチングサポートシステムの開発-リアルタイムゲーム分析ソフトの提案-	共	道上静香、細木祐子、道慶知子、宮地弘太郎、中川雅央	テニスの科学第25巻	25	P82-P83	2017年3月
実践報告	テニスの体力特性から見たレギュラー判断基準の検討-大学テニス選手を対象として-	共	川上諒、宮地弘太郎、梅林薫	大阪体育大学研究紀要　47巻	47	P56-P62	2017年3月
実践報告	各カテゴリーでのナショナルテニスコーチへのインタビュー調査-実践現場におけるコーチングの体系化を試みる-	共	宮地弘太郎　梅林薫	大阪体育大学研究紀要　４７巻	47	P55-P78	2017年3月
実践報告	第２９回ユニバーシアード競技大会（２０１７・台北）における男子テニスチームの取組み事例	共	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、北崎悦子	テニスの科学第２６巻	26		2017年3月
実践報告	ユニバーシアード競技大会（２０１７・台北）における日本女子テニスチームの混合ダブルス金メダル獲得までの強化活動事例	共	道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、北崎悦子、宮地弘太郎	テニスの科学第２６巻	26		2017年3月
実践報告	テニスのサービス速度と上肢、下肢パワーの関係性について	共	川上諒、宮地弘太郎、梅林薫	テニスの科学第２６巻	26		2017年3月

実践報告	砂入人工芝コートを活用した日本テニス選手の育成、強化のための効果的な指導法の提案	共	道上静香、細木祐子、道慶知子、宮地弘太郎、中川雅央	テニスの科学第２６巻	26		2017年3月
事例報告	熟練指導者におけるコーチング活動に関する事例報告-大学テニスチームの数ヶ月における指導実践を省察する-	共	宮地弘太郎　梅林薫　川上諒	大阪体育大学研究紀要第50巻	50		2019年2月
実践報告	テニスの試合中における身体活動と持久力テニスとの関係性について	共	川上　諒、今西平、丸谷賢弘、宮地弘太郎、梅林薫	テニスの科学第２８巻	28	P96	2020年3月
実践報告	ウェアラブセンサーを用いた大学テニス選手の試合時における活動強度の評価	共	丸谷賢弘、近田彰治、川上諒、宮地弘太郎、中田研、梅林薫	テニスの科学第２８巻	28	P98	2020年3月
実践報告	高大連携システムの構築と取り組み	共	川上　諒、三島隆章、宮地弘太郎、浦久保和哉、安田昌玄、姫路文博、森田卓、工藤哲士、辻博規、山口隼澄、梅林薫	大阪体育大学研究紀要第５２巻	52	pp73-78	2021年3月
資料論文	Game Senseを用いた練習方法の検討 -ジュニアテニス選手のパフォーマンス変容に与える効果について-	単	宮地弘太郎	大阪体育大学研究紀要第51巻	51		2020年2月
実践報告	Energy flow of the trunk in the tennis serve divided into translational and rotational movements	共	Munenori Murataa*, Toru Ishiharab, Shizuka Michikamic, Kotaro Miyachid, Norihisa Fujiie	Sports Biomechanics			
実践報告	「特別企画`コロナ禍における強化クラブの取り組み`」	単	宮地弘太郎	櫂 第23号	23		2021年3月
実践報告	ユニバーシアード競技大会を振り返って（2019ナポリ）	単	宮地弘太郎	櫂 第22号	22		2020年3月
研究ノート	テニスのダブルスにおける戦術パフォーマンス改善を目指した取り組み -約 10 ヶ月に渡る中期的なコーチングの検証-	共	宮地弘太郎　岡村修平　梅林薫	大阪体育大学研究紀要第５５巻	55		2023年3月
研究ノート	テニスのゲーム分析から見る指導現場への提案 -関西大学テニス連盟主催大会を対象に-	共	宮地弘太郎　岡村修平	大阪体育大学研究紀要第５６巻			2025年3月
実践報告	③2023ユニバーシティゲームズ 男子代表監督 望み コーチの視覚	単	宮地弘太郎	櫂26号	26		2024年3月
事例報告	クレーコートを得意とする世界エリートテニス選手のシングルスのパフォーマンス分析	単	宮地弘太郎	大阪体育大学研究紀要第52巻	52		2022年3月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内(一般演題)	2013年12月	日本テニス学会	本学テニス部員に対するトレーニングプログラムについての検討	島根大学	宮地弘太郎
国内(一般演題)	2014年12月	日本テニス学会	第27回ユニバーシアード競技大 会(2013/カザン)における女子 テニスチームの取り組み - 9 年間の取り組みから金メダル獲得 の要因を探る-	東京理科大学	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小屋菜穂子
国内(一般演題)	2014年12月	日本テニス学会	男子エリートジュニアテニス選手のゲーム分析について	東京理科大学	黄　金禄（大阪体育大学院）、出井章雅（同志社大学）、今西　平（立教大学）　鈴木奈都美（大阪体育大学）、宮地弘太郎（大阪体育大学）、梅林薫（大阪体育大学）

国内(一般演題)	2014年12月	日本テニス学会	テニスにおけるゲーム・映像分 析サポートの実践事例-第27回ユ ニバーシアード競技大会(2013/ カザン)に向けての活動から-	東京理科大学	道上静香、細木祐子、宮地弘太郎、高橋仁大、小 屋菜穂子
国内(一般演題)	2014年12月	日本テニス学会	テニスのシングルスゲームにおいて流れを掴む局面でのプレートは-2014年全豪オープンテニス　ナダル対錦織を考察する-	東京理科大学	宮地弘太郎
国内(一般演題)	2015年12月	日本テニス学会	ユニバーシアード競技大会（2015/クワンジュ）において１６年ぶりに男子ダブルス銅メダルを獲得に至った強化活動	鹿屋体育大学	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、梅林薫
国内(一般演題)	2016年12月	日本テニス学会	コートサーフェイス別におけるテニスのゲームパフォーマンスに関する指導者の主観的評価ー砂入人工芝コートとハードコートのプレーに着目してー	鹿屋体育大学	宮地弘太郎、道上静香、細木祐子
国内(一般演題)	2016年6月	日本テニス学会	テニスのフットワークに関する研究-数ヶ月に渡る継続的な縄跳びがフットワークパフォーマンスに与える効果についての検討-	岩手大学	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、三好勲、安田忍、右近憲三、梅林薫
国内(一般演題)	2016年6月	日本テニス学会	テニスのコーチングサポートシステムの開発-リアルタイムゲーム分析ソフトの提案-	岩手大学	道上静香、細木祐子、道慶知子、宮地弘太郎、中川雅央
国内(一般演題)	2017年12月	日本テニス学会	第２９回ユニバーシアード競技大会（２０１７・台北）における男子テニスチームの取組み事例	慶応大学	宮地弘太郎、道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、北崎悦子
国内(一般演題)	2017年12月	日本テニス学会	ユニバーシアード競技大会（２０１７・台北）における日本女子テニスチームの混合ダブルス金メダル獲得までの強化活動事例	慶応大学	道上静香、細木祐、高橋仁大、北村晢、北崎悦子、宮地弘太郎
国内(一般演題)	2017年12月	日本テニス学会	テニスのサービス速度と上肢、下肢パワーの関係性について	慶応大学	川上諒、宮地弘太郎、梅林薫
国内(一般演題)	2022年3月	日本コーチング学会	テニスのダブルスにおいて用いられる技術とカウントの関係 ー男女大学テニス選手を対象にー	鹿屋体育大学	岡村修平　宮地弘太郎 梅林薫
国内(一般演題)	2023年3月	日本ハンドボール学会			
国内(一般演題)	2017年12月	日本テニス学会	砂入人工芝コートを活用した日本テニス選手の育成、強化のための効果的な指導法の提案	慶応大学	道上静香、細木祐子、道慶知子、宮地弘太郎、中川雅央
国際	2017年6月	ECSS European College of Sport Science	The Physical Strength Characteristics of Upper and Lower Body Power tests in College Men’s Tennis player	ECSS	Katsuya Suzukawa ,Ryo Kawakami, Kotaro Miyachi, Kaoru Umebayashi

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）

特許

特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合⇒	公告・特許番号	国

Ⅲ　加入学会および社会における活動

期　　間	内　　容
加入学会	
平成１４年４月～現在に至る	日本テニス学会運営委員
平成１７年４月～現在に至る	日本体育学会、コーチング学会、大阪体育学会、アダプテット学会、バイオメカニクス学会
社会的活動	
平成１４年４月～現在に至る	関西学生テニス連盟　強化委員
平成１７年４月～現在に至る	日本テニス協会ナショナルコーチ（ユニバーシアード監督、ヘッドコーチ）日本オリンピック委員会テクニカルスタッフ

Ⅳ　管理活動

期　　間	内　　容
委員会活動	
平成２３年4月～現在に至る	競技力向上委員会,
平成２６年４月～平成２８年３月	入試委員会（AO部会）、地域交流委員会（部会長）、学生委員会、研究委員会（紀要部会）,新推薦入試体力テスト検討部会（部会長）
特別プロジェクト活動	

Ⅴ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	男子テニス部　2部	２．役職 監督	２０１４年4月より	３．部員数	46　人
４．現場指導の頻度	① ほぼ毎日				
５．合宿指導	年間合宿回数：　2　回	延べ日数：　10　日			
６．クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる				
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②ある程度取組んでいる				
８．部員の就職指導への取り組み	②ある程度取組んでいる				

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所
	関西学生春季テニストーナメント（本戦、予選）、関西学生夏季テニス選手権（本戦、予選）、関西学生新進テニストーナメント（本戦、予選）、関西チャレンジ、関西地域トーナメント	４月から５月、６月から７月 ８月から９月、１０月から１１月	各大学、靭公園、万博公園
	全日本学生テニス（本戦、予選）全日本学生室内選手権（本戦、予選）関西大学リーグ戦、入れ替え戦　その他JOP大会	８月から９月、１２月	江坂テニスセンター、岐阜メモリアルテニスセンター

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所
R3 10月から11月	関西学生地域トーナメント	シングルスベスト４、ダブルスベスト８	
H30 3月1日から9日	関西学生新進トーナメント	シングルス準優勝	万博公園
10月から11月	関西学生地域トーナメント	シングルス優勝、準優勝	各大学
9月、11月	全日本学生選手権、全日本学生室内選手権	シングルスベスト６４、予選２回戦	岐阜メモリアル、江坂テニスセンター
8月	関西学生チャレンジテニストーナメント	ダブルス優勝	各大学
9月	関西学生テニスリーグ戦	２部２位、１部入れ替え戦敗退（同社大学　2－5）　H29 １部入れ替え戦敗退（神戸学院大学0-5)，H28 １部入れ替え戦敗退(甲南大学　1-4)，H27１部入れ替え戦敗退(近畿大学0-5)	江坂テニスセンター
H31 3月1日から9日	関西学生新進テニストーナメント	シングルスベスト８	万博公園
2020年度　3月	関西学生新進テニストーナメント	シングルスベスト１６	万博公園
2020年度　12月	関西大学対抗テニスリーグ（代替え）１部３位	１部３位	

Ⅵ　賞罰（職務に関する賞罰）

年　　月	受賞等機関名	内　　容	備　　考